

支部だより

★

神戸・大阪

神戸

第六回支部例會記録。昭和13年2月12日、大丸食堂別室(神戸市元町4)にて。

出席者 右記12名。改發、改發氏御令息、菫部、佐伯村山、西森、井本、津久井、岡林、神田、乾、美田。

講話 會員村山辨次氏より“陰陽寮と曆”と稱する題目にて、我邦へ曆の渡來せし時代及び迷信の多分に加味されたる曆の爲めに誤られたる現代の曆觀、それが爲めに一般人士より閑却され勝ちになれる正しき曆の普及の爲め學生に對して曆の一般知識附與、引いては天文學への一つの進歩を促す基となし度しとの御説を拜す。明治初年の曆本の實物を示されてその變遷の説明をされ、引き續き菫部氏らより、二三の質問等あり、興盡くる所を知らず。21時半散會す。因に次回は4月9日の豫定(禾山生記)

大阪

☑支部報第33號(3月1日) 用紙2頁, 150部發行。

☑支部役員會(3月6日) 14時より「をぐらや」にて開催。大阪支部役員會規約(會務執行規約)を審議し、大阪支部とプラネタリウムとの提携の今後の打合せ等を爲す。

☑支部3月例會(3月6日) 役員會の後を受けて例會とする。遠く京都・神戸よりの來會者あり。大口幹事の司會にて座談會を開き、「カノープスを見る」西森氏、「昆蟲の話」野本氏、「反射望遠鏡で太陽寫眞撮影」伊達氏、「本邦天文史第6講」井本氏、「月の虹」神田氏、「星の美とプラネタリウム」宇野氏、等々の興味ある座談會は盛會裡に22時閉會。出席者18名。

☑銀河第2卷第2號(3月)發行 全60頁、愈々内容充實。表紙「月面 Sirsalis 裂溝」(寫眞版)、口繪「本年1月16日の太陽面」(清水眞一氏撮影密着燒寫眞)、扉「即興頭聯自由詩」愛天文學人、卷頭言「電氣科學館と當支部との提携」、「開館1周年を回顧して」電氣科學館長小島、「プラネタリウムに望む事共」足駄生、「プラネタリウム樂屋囃」電氣科學館清水、「プラネタリウムの辯」電氣科學館高城、「天象館を詠む」前電氣局長平塚、「二重星に就いて」谷口、「美濃隕石の概略と2,3の私見」廣瀬、「星のぞき(8)」イグレッタ生、「變光星雜誌(4)」西川、「カメラ不要の寫眞復寫法」西森、「山鹿素行の見た黃道光」津久井、「科學教材」、「35糎(12時半)反射鏡を完成するまで」前田、「カノープスを見る」老人、「奉天だより」志龍須、「天文街を往く(8丁目)」天界漫步士、「編輯後記」同人記、附録「大阪と天文」山本博士。